

シンポジウム

女性国際戦犯法廷から 10年

平和構築のために

2000年12月、東京で「女性国際戦犯法廷」が開かれ、性奴隷制としての日本軍「慰安婦」制の実態が浮き彫りになり、被害者の尊厳回復に大きく踏み出しました。

あれから10年。

判決で出された日本政府への勧告は、まだ実現していませんが、「法廷」は、日本の戦後と社会の矛盾をあぶりだし、確実に社会を変えつつあるのではないのでしょうか。

あの「法廷」は何だったのか、もう一度ふりかえり、人権と平和構築への道を考えます。

基調講演 「女性国際戦犯法廷から10年」

池田恵理子さん

ジャーナリスト、元NHKディレクター。
アクティブ・ミュージアム「わたちの戦争と平和資料館」(wam) 館長

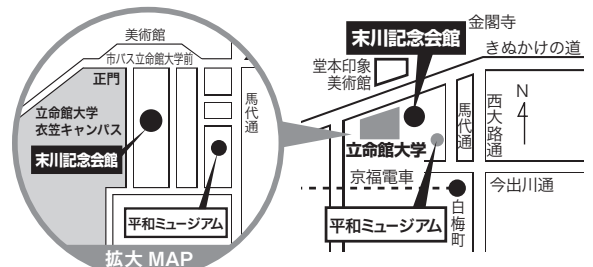
パネルディスカッション 「日本軍性奴隷制問題をめぐって」

- ・自治体の「慰安婦」問題解決を求める意見書採択 源淳子さん
- ・NHK 番組改ざん問題 湯山哲守さん
- ・グアテマラ性暴力民衆裁判 柴田修子さん

10月17日(日) 午後1:30～5:00

**立命館大学
末川記念会館**

JR・近鉄 京都駅より→市バス50にて「立命館大学前」下車、徒歩5分
阪急電車 西院駅より→市バス205にて「わら天神前」下車、徒歩10分／市バス(快205)・(快202)にて「立命館大学前」下車、徒歩5分



主催: 立命館大学国際言語文化研究所プロジェクトC1

科研基盤研究B(代表:秋林こずえ)「バックラッシュ時代の平和構築とジェンダー」

共催: ハーグの会/日本軍「慰安婦(性奴隷)」問題の早期解決をめざす懇談会 連絡先: hagukenokai@yahoo.co.jp

資料代 500円
学生 300円